

UNIFY
DB INTEGRATOR
for UNIX

インストールと構成ガイド

目次

お読みになる前に	1
Unify DataServer UNIX ODBC ドライバについて	4
Unify DBIntegrator と TCP/IP	4
Unify DBIntegrator パッケージの内容	5
Unify DBIntegrator のドキュメントについて	6
システム必要条件	9
同時接続ライセンスのアップグレード	10
技術サポート	11
ユニファイジャパン株式会社連絡先	12
第1章：UNIXへのUnify DBIntegratorのインストール	13
Unify DBIntegrator のインストール手順	15
Unify DBIntegrator のデフォルト設定	17
Unify DBIntegrator Server のインストール	18
Unify DataServer NT Server 上のデータ・ソースの構成	24
データ・ソースの追加	24
データ・ソースの変更	26
データ・ソースの削除	27
odbcdmn.ini の内容	27
Unify DataServer UNIX Server にインストールされるファイル	29
第2章：Unify DBIntegrator Clientのインストール	31
Unify DBIntegrator Client のカスタマイズ	34
Unify DBIntegrator Client をインストールする前に	35
Unify DBIntegrator Client インストールの構成	37
ディスクからの Unify DBIntegrator Client のインストール	40
ネットワークからの Unify DBIntegrator Client のインストール	47

第3章：Unify DBIntegrator Client データ・ソースの構成	53
データ・ソースの更新 -----	55
Unify DBIntegrator Client データ・ソースの構成 -----	57
データ・ソースの追加 -----	57
データ・ソースの更新 -----	59
データ・ソースの削除 -----	60
アレイ・フェッチ・オプションの変更 -----	60
第4章：トラブル解決	61
全般的なトラブル解決のチェックリスト -----	64
UNIX への Unify DBIntegrator Server のインストール -----	65
Unify DBIntegrator Client のインストール -----	69
付録A：Unify DataServer NT ODBC ドライバ仕様	71
Unify DataServer NT ODBC ドライバのデータ型 -----	73
ODBC API コンフォーマンス -----	74
SQL 文法のサポート -----	74

お読みになる前に

お読みになる前に

Unify DBIntegrator によろこそ、Unify DBIntegrator によって、Unify DataServer UNIX のデータ・ソースに対するクライアント - サーバ・データ接続が、高速且つ効率的に実現します。Unify DataServer UNIX ODBC ドライバは、「プラグ & プレイ」、つまり、クライアント上の軽い ODBC ドライバ 1 つを介して、自分の全てのデータ・ソースを全クライアントに開放することができます。

Unify DBIntegrator は、LAN や WAN の TCP/IP を利用して、クライアント・コンピュータとサーバ間のダイレクト通信を可能にします。

インストールする Unify DBIntegrator のコンポーネントは 2 つだけです。

- Unify DBIntegrator Server
- エンドユーザ・マシン向け Unify DBIntegrator Client

Unify DBIntegrator Client をインストールするには、以下のインストール方法のどれかを選んで下さい。

- Unify DBIntegrator Client をユーザにとってインストールしやすい、ネットワーク上のどこかへコピーして下さい。デフォルトでは、Unify DBIntegrator Client は対話型インストールに構成されていますが、このオプションはオフにできます。これにより、ユーザはセットアップ・プログラムを動作させると、何も入力しなくとも、Unify DBIntegrator Client をデフォルト設定か、あなたが事前に構成した設定でインストールすることができます。
- Unify DBIntegrator Client のディスクを配布して下さい。あなたが選んだ構成によって、ユーザは対話型または非対話型でソフトウェアをインストールできます。
- Unify DBIntegrator Client を電子メールに添付し、エンド・ユーザに送って下さい。
- ブラウザに対し、Java アプレットを使用するため、JDBC 版 Unify DBIntegrator をダウンロードすることを命じて下さい。詳細は、『JDBC 版 Unify DBIntegrator の使用』(Unify DBIntegratorJDBC.html) を参照して下さい。これは、JDBC 版 Unify DBIntegrator と共にインストールされる HTML ドキュメント (DBIntegratorJDBC.html) です。

Unify DataServer UNIX ODBC ドライバについて

Unify DataServer UNIX ODBC ドライバ (共有ライブラリ *libdsodbc.so*) は、あなたの DataServer のデータベースをアクセスします。

Unify DBIntegrator と TCP/IP

ODBC 用の Unify DBIntegrator Client は、イーサネットあるいはトークン・リングのネットワーク環境において Winsock 互換の TCP/IP 通信プロトコルを使い、サーバ上の Unify DBIntegrator と通信します。また、PPP や SLIP を介したモデム接続もサポートされています。

Unify DBIntegrator パッケージの内容

Unify DataServer UNIX の CD には、以下が入っています。

- Unify DataServer UNIX ODBC ドライバを含む、Unify DataServer ソフトウェア

Unify DataServer のインストールが終わると、\$UNIFY/..の各ディレクトリには、以下のように DBIntegrator のクライアントが入っています。

DBIntegrator Client	ディレクトリ	説明
Unify DBIntegrator Client for Windows 3.11 セットアップ・プログラム	Client16	Windows 3.1/3.11 for Workgroups 用クライアント・ソフトウェア
Unify DBIntegrator Client for Windows 95 and NT セットアップ・プログラム	Client32	Windows 95、Windows NT 用クライアント・ソフトウェア
Unify DBIntegrator Client for JDBC セットアップ・プログラム	Clientjava	README ファイルを参照して下さい。

Unify DBIntegrator ドキュメントについて

この『Unify DBIntegrator インストールと構成ガイド』は、Unify DataServer UNIX サーバの構成を熟知したユーザが対象です。

ヒント Unify DBIntegrator における幾つかの共通用語の定義については、『Unify DBIntegrator 管理者ガイド』巻末の「用語集」を参照して下さい。

Unify DBIntegrator のドキュメント

Unify DBIntegrator 製品のドキュメント集は、以下の構成になっています。

- 『Unify DBIntegrator インストールと構成ガイド』
このマニュアルでは、UNIX サーバ機への Unify DBIntegrator Server のインストール方法とエンドユーザ機への Unify DBIntegrator Client のインストール方法を説明します。内容が広範囲な「トラブル解決」編やデータ・ソース構成の概要も含んでいます。
- 『Unify DBIntegrator 管理者ガイド』
サーバやクライアントの上で Unify DBIntegrator を取り扱うための詳細情報が書かれています。トラブル解決のための情報や Unify DBIntegrator 用語の「用語集」も含んでいます。

- 『JDBC 版 Unify DBIntegrator Client の使用』

JDBC 版 Unify DBIntegrator Client と共にインストールされる HTML ファイルのドキュメント (DBIntegratorJDBC.html) で、JDBC 版 Unify DBIntegrator Client に関する情報が書かれています。

- オンライン・ドキュメント

Unify DBIntegrator Client の使用に関する全般的な情報は、Unify DBIntegrator Client プログラム群 (Windows 3.1/3.11) またはプログラム・フォルダのヘルプ・トピックをご覧ください。

オンライン・ヘルプは Unify DBIntegrator Control、Unify DBIntegrator Admin および Unify DBIntegrator Client アプリケーションについて用意されています。

印刷物やオンライン・ドキュメントに書かれていない最新情報については、Unify DBIntegrator プログラム群の README ファイルをご覧ください。

このマニュアルの内容

このマニュアルは以下の章に分かれています。

- 「お読みになる前に」

この章では、DBIntegrator パッケージの内容、システム必要条件、ユニファイ・ジャパン株式会社への連絡方法について説明します。

- 「第 1 章：UNIX への Unify DBIntegrator Server のインストール」

この章では、UNIX サーバへの Unify DBIntegrator のインストールと web サーバのセットアップの手順について説明します。

- 「第 2 章：Unify DBIntegrator Client のインストール」

この章では、クライアント機への DBIntegrator Client のインストール手順を説明します。

お読みになる前に

- 「第3章：DBIntegrator Client データ・ソースの構成」
この章には、DBIntegrator Client データ・ソースの構成に関する情報が書かれています。
- 「第4章：トラブル解決」
この章には、全般的なトラブル解決情報が書かれています。
- 「付録A：Unify DataServer UNIX ODBC ドライバの仕様」
この章には、Unify DataServer UNIX ODBC ドライバの仕様が書かれています。

システム必要条件

UNIX サーバ

注意 これらの必要条件は、既に Unify DataServer UNIX がインストール済みであることが前提です。

Unify DataServer UNIX ODBC ドライバ

- Unify DBIntegrator ODBC ドライバが、Unify DataServer UNIX バージョン 6.3 用に構成されていること。
- システム必要条件については、Unify DataServer ドキュメントを参照して下さい。

Windows 3.11 版 Unify DBIntegrator Client

- CPU = 386 以上、RAM = 4MB
- 空き領域約 1MB のハードディスク
- 3.5 インチ HD ディスクが読めるディスク・ドライブ (オプション ネットワークからのインストールが可能)
- Windows 3.1 または Windows for Workgroups 3.11
- Windows for Workgroups 3.11 用 TCP/IP ネットワーキング・オプション
- Windows 3.1 用 TCP/IP Winsock 1.1 と互換のネットワーキング・オプション

Windows 95、Windows NT 版 Unify DBIntegrator Client

- CPU = 486 または Pentium、RAM = 8MB
- 空き領域約 1.8MB のハードディスク
- 3.5 インチ HD ディスクが読めるディスク・ドライブ (オプション ネットワークからのインストールが可能)
- Windows NT 4.0 または Windows 95
- TCP/IP ネットワーキング・オプション

同時接続ライセンスのアップグレード

同時接続ライセンス数のアップグレードは、ユニファイジャパン株式会社の技術サポートもしくはライセンスを行ったユニファイ代理店に連絡し、新しいライセンス・キーを入手して下さい。

注意 ライセンス、同時接続の制限、有効期限の表示は、コマンドラインで `$UNIFY/./diag/prlcnf`、続いて `<exename>` と入力して下さい。exename は `odbcdmn`、`libsodbc.so` または `libdsodbc.sl` (HP) のどれかです。

技術サポート

Unify DBIntegrator のインストールがひとまず終わったら、README ファイルで、インストール・メディアに添付されたドキュメント集には書かれていない、製品に関する特定の情報や、この Unify DBIntegrator のリリース全般に関する情報をチェックして下さい。

Unify DBIntegrator をサーバやエンド・ユーザのクライアント機に上手くインストールできない場合は、「第 4 章：トラブル解決」を参照して下さい。

それでも解決しない場合は、後述の「ユニファイ・カスタマ・サポート」に連絡して下さい。ご質問、ご意見、将来的なご要望をお待ちしています。

カスタマ・サポートに連絡する前に、

より良いお手伝いをさせていただくために、当社にご連絡の際には、以下の情報をご用意下さい。

- Unify DBIntegrator Server と Unify DBIntegrator Client コンピュータ、両方のプラットフォームと OS バージョン
- 問題を抱えている Unify DataServer のバージョン。バージョン番号は、`$UNIFY/./install/settings` をご覧下さい。
- Unify DBIntegrator Server の製品バージョン
- `$UNIFY/odbcdmn.ini` ファイルの内容

ユニファイジャパン株式会社連絡先

サポート・センタ

〒541-0052 大阪市中央区安土町3丁目2-14 (みどり本町河野ビル)
TEL : (06)6266-1590 FAX : (06)6266-1591
Email : ujsup@uj.unify.com
ホームページ : <http://www.unify.com/jp>

本社

〒110-0008 東京都台東区池之端 1-2-18 (市松ビル)
TEL : (03)5814-3051 FAX : (03) 5814-3102
Email : sales@uj.unify.com

第 1 章 : UNIX への Unify DBIntegrator Server の インストール

UNIX への Unify DBIntegrator のインストール

この節では、UNIX への Unify DBIntegrator のインストールと web サーバのセットアップの手順を説明します。

Unify DBIntegrator (Server および Client) インストールに関する一般的な情報については、15 ページの「Unify DBIntegrator のインストール手順」をお読み下さい。

上手くインストールできない場合は、65 ページ「第 4 章：トラブル解決」の「UNIX への Unify DBIntegrator のインストール」をご覧ください。

Unify DBIntegrator のインストール手順

Unify DBIntegrator のインストールを確実にを行うためには、以下の手順を踏むことをお勧めします。

1. 過去にインストールした Unify DBIntegrator のコピーが停止していることと、サーバ環境が正しくセットアップされていることを確かめて下さい。
2. TCP/IP ネットワーキング・オプションが、サーバと全てのクライアント・コンピュータに正しくインストールされていることを確かめて下さい。
3. クライアント・ワークステーションと Unify DBIntegrator Server 間のネットワーク通信をチェックして下さい。
4. Unify DataServer が正しくインストールされていることを確かめて下さい。
Unify DataServer は Unify DBIntegrator と同一サーバにインストールされなければなりません。
5. サーバ機に Unify DBIntegrator Server をインストールして下さい。詳細は、18 ページの「Unify DBIntegrator Server のインストール」を参照して下さい。

6. (オプション)サーバ上にシステム・データ・ソースがない場合、DBIntegrator Admin を使って、少なくとも 1 つをテスト用に構成することをお勧めします。データ・ソース構成の概要は、24 ページの「Unify DBIntegrator Server 上のデータ・ソースの構成」を参照して下さい。
7. テスト用として、クライアント・コンピュータ 1 台に Unify DBIntegrator Client を構成、インストールして下さい。このクライアントが Unify DBIntegrator Server に接続し、参照権を与えられたデータ・ソースを全て参照できることを確かめて下さい。
8. (オプション)Unify DBIntegrator Client ディスクを配布用に構成して下さい。構成オプションの詳細は、37 ページの「Unify DBIntegrator Client インストールの構成」を参照して下さい。
9. Unify DBIntegrator Client ディスクをエンドユーザに配布して下さい。
10. クライアント・コンピュータの OS に合った、正しいバージョンの Unify DBIntegrator Client をインストールして下さい。

Unify DBIntegrator のデフォルト設定

注意 データベース・セキュリティは DBMS に属します。Unify DBIntegrator では、データ・ソースとユーザのリレーションシップを管理することで、データ・ソースの可視性を提供しますが、セキュリティは提供しません。例えば、ユーザが Unify DBIntegrator Admin にデータ・ソースの参照を許されても、DBMS 固有のセキュリティが課す制限によって、データをアクセスできない場合があります。

デフォルトでは、Unify DBIntegrator Server は以下の設定によってインストールされます。

- 全てのシステム・データ・ソースが全ユーザに可視
- イベント・ログ = 無効
- Unify DBIntegrator Manager ポート番号 = 1583
- Unify DBIntegrator Service ポート番号 = 1599
- Unify DBIntegrator Service のブロードキャスト間隔 = 60 秒
- HTTP ポート番号 = 80
- ファイアウォール・アドレス・マッピング = 無効
- ファイアウォール・トンネリング = 有効
- 暗号化 = 無効
- アイドル接続タイムアウト = 360 分
- 問い合わせ接続タイムアウト = 60 分
- ネットワーク・インターフェイス = 全てのローカル・アドレス

Unify DBIntegrator をセットアップしたり、テストしている間はこの設定をお使いになることをお勧めします。

Control Center を使って、インストール後にこれらの設定を変更できます。デフォルト設定の変更については、『Unify DBIntegrator 管理者ガイド』23 ページの「Unify DBIntegrator Server のコントロール」を参照して下さい。

Unify DBIntegrator Server のインストール

この節では、DBIntegrator Server のインストールと web サーバのセットアップの手順を説明します。

注意 以下の節に記されたコマンドは、1 行にまとめて入力しなければなりません。

Unify DBIntegrator Server をインストールするには、

1. Unify DBIntegrator をインストールする前に、このマニュアル 9 ページの「システム必要条件」をお読みになって、システムの前提条件を全て満たすことを確かめて下さい。
2. DataServer ドキュメントに従って、Unify DataServer をインストールして下さい。
3. サーバ機に web サーバをインストールして下さい。
4. cgi-bin と同じディレクトリに “ drivers ” ディレクトリを作して下さい。
5. web サーバのドキュメントに従って、web サーバを構成し、cgi-bin と drivers ディレクトリにプロテクトを掛けて下さい。

注意 web サーバは Unify DBIntegrator と同じマシン上になければなりません。

6. PATH や (Solaris の LD_LIBRARY_PATH などの) 共有ライブラリ・パス環境変数の最初に、サーバ・コンポーネント格納ディレクトリを含むことを確認して下さい。

```
export PATH=$UNIFY/./bin:$PATH
```

```
export LD_LIBRARY_PATH=$UNIFY/./bin:$LD_LIBRARY_PATH
```

7. \$UNIFY/sample.odbc.dmn.ini ファイルを \$UNIFY/odbc.dmn.ini にコピーして下さい。
8. odbc.dmn.ini ファイルを編集し、DBIntegrator Server 部の InstallDirectory プロパティを以下に設定して下さい。

```
InstallDirectory=<value of $UNIFY>/..
```

9. 各 Unify DBIntegrator データ・ソースの "Driver" の記述が、必要とする共有ライブラリの正しいパスとファイル名を持つことを確かめて下さい。
10. \$UNIFY/./web のコンテンツを自分の web サーバ機にコピーして下さい。以下のディレクトリ (またはディレクトリのエイリアス) は、あなたの web サーバの root ディレクトリにあります。

ディレクトリ	説明
cgi-bin	リモート管理スクリプトの <i>admin</i> 、 <i>control</i> 、 <i>xadmin</i> 、 <i>xcontrol</i> 。 <i>admin</i> と <i>control</i> は UNIX CGI 実行形式で、 <i>xadmin</i> と <i>xcontrol</i> は、それを実行する UNIX シェル・スクリプトです。
drivers	データ・ソース生成用 HTML ページドライバ固有です。
help	ヘルプ・ページ
images	CGI 実行形式の <i>admin</i> と <i>control</i> が使用するグラフィック・ファイルです。

11. cgi-bin のシェル・スクリプト *xadmin* と *xcontrol* を編集し、以下のようにして下さい。

- Unify 環境変数は Unify DBIntegrator *odbcdmn.ini* ファイルのあるディレクトリを指し示さなければなりません。
- 実行形式 *admin* と *control* のパスが正しいことを確かめて下さい。
- LD_LIBRARY_PATH が正しく設定されていることを確かめて下さい。

```
export UNIFY=<$UNIFY の値>
```

```
export PATH=/u/$UNIFY/./bin:$PATH
```

```
export LD_LIBRARY_PATH=/u/[$UNIFY/./bin:$LD_LIBRARY_PATH
```

- ファイル・プロパティを変更して、実行形式にして下さい。

```
chmod a +x xadmin
```

```
chmod a +x xcontrol
```

以下の手順を踏んで、Unify DBIntegrator 上の自分の ODBC データ・ソースを構成して下さい。

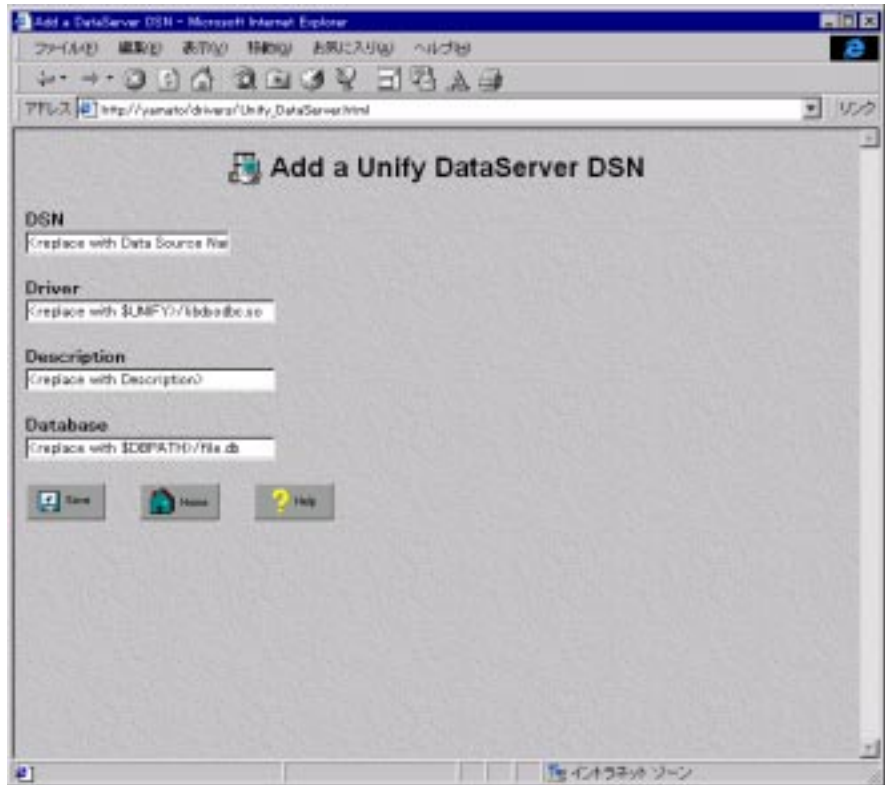
1. 以下の URL を開き、自分の web ブラウザで DBIntegrator Admin を立ち上げて下さい。

```
http://<yourserver>/cgi-bin/xadmin
```

「リモート・データ・ソース管理」画面が現れます。



2. 「Unify_DataServer.html」をクリックして下さい。構成画面が現れます。
3. 適当なフィールドに記入して下さい。フィールドにはスペース（空白）を入れないで下さい。



構成画面には4つのフィールドがあります。

データ・ソース名(DSN)：データ・ソース名を入力して下さい。このデータ・ソース名は、クライアントのデータ・ソース構成情報、Control Centerの「表示ウィンドウ」の「データ・ソース名」カラム、「リモート・データ・ソース管理」リストなど色々なところに使われます。データ・ソース名には意味を持つ名前を選ぶことをお勧めします。

ドライバ(Driver)：webサーバ機にあるドライバのフルパスとファイル名です。

説明(Description)：これはオプションです。データ・ソースの説明を入力して下さい。この情報はサーバの *odbcadm.ini* に書き込まれますので、説明には意味を持たせた方がよいと思います。

データベース名(Database) : ODBC ドライバに対し、どのデータを参照するかを特に指定する補足情報です。例えば、データベース・サーバが複数のデータベースを持つ場合、データベース名も複数あることになります。自分が使いたいデータ

ベースの名前を入力して下さい。

4. 以下のどちらかを行って下さい。
 - 変更をセーブする場合は、「保存(Save)」をクリックして下さい。odbcdmn.ini ファイルにデータ・ソース情報を書き込みます。
 - セーブしないでキャンセルするには、「Home」をクリックして下さい。

注意 Unify DBIntegrator の構成については、24 ページの「Unify DBIntegrator Server 上のデータ・ソースの構成」を参照して下さい。

5. 自分の web ブラウザを開いて、以下を指示して下さい。
http://<yourserver>/cgi-bin/xcontrol
6. 「起動(Start)」ボタンをクリックして、Unify DBIntegrator を起動して下さい。
7. クライアント機上で Unify DBIntegrator Client の構成とインストールをして下さい。詳細は、第 2 章「Unify DBIntegrator Client のインストール」を参照して下さい。

Unify DBIntegrator Server 上の データソースの構成

Unify DBIntegrator をひとまずインストールしたら、ユーザがアクセスするデータソースを構成する必要があります。これには、HTML ベースの DBIntegrator Admin を使って下さい。リモート・データ・ソース管理プログラムです。

注意 データ・ソースの追加や変更作業中に文字列に含まれた空白(/ 前後のスペース)は、データ・ソース情報をセーブするときに全て削除されます。

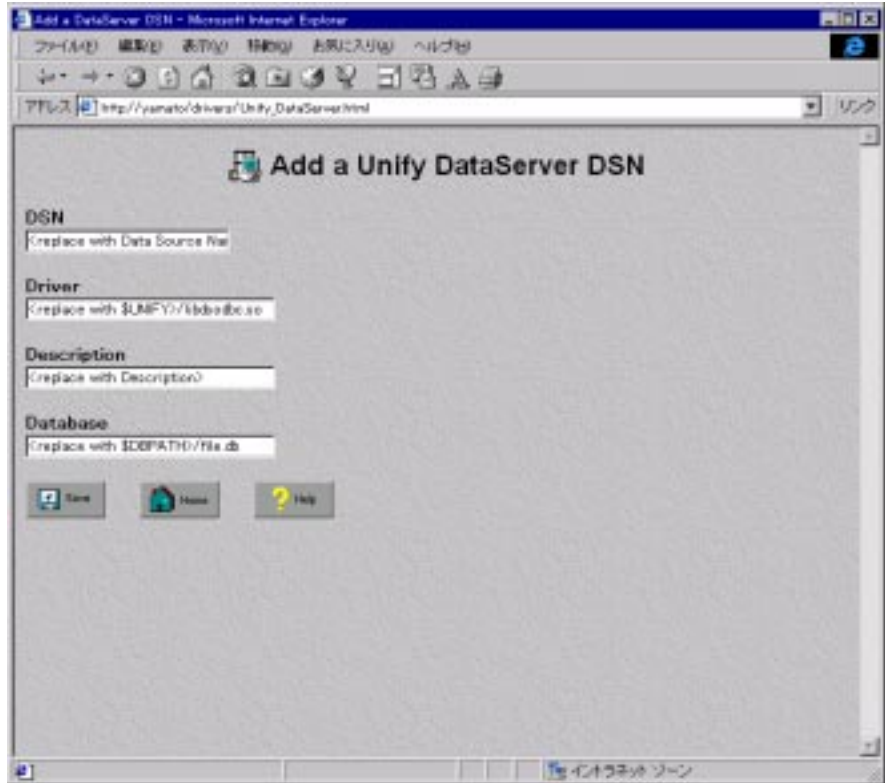
データ・ソースの追加

データ・ソースを追加するには、

1. web ブラウザで以下のファイルを開き、DBIntegrator Admin を立ち上げて下さい。

`http://<yoursever>/cgi-bin/xadmin`

「リモート・データ・ソース管理」のページが現れます。
2. 「Unify_DataServer.html」をクリックして下さい。構成画面が現れます。
3. 適当なフィールドに記入して下さい。フィールドにはスペース(空白)を入れないで下さい。



構成画面には4つのフィールドがあります。

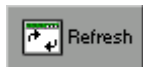
データ・ソース名(DSN) : データ・ソース名を入力して下さい。このデータ・ソース名は、クライアントのデータ・ソース構成情報、「コントロール・センタ」の「表示ウィンドウ」の「データ・ソース名」カラム、「リモート・データ・ソース管理」リストなど色々なところに使われます。データ・ソース名には意味を持つ名前を選ぶことをお勧めします。

ドライバ(Driver) : web サーバ上のドライバのフルパスとファイル名です。

説明(Description) : これはオプションです。データ・ソースの説明を入力して下さい。この情報はサーバの `odbcadm.ini` に書き込まれますので、説明には意味を持たせた方がよいと思います。

データベース名(Database)：ODBC ドライバに対し、どのデータを参照するかを特に指定する補足情報です。例えば、データベース・サーバが複数のデータベースを持つ場合、データベース名も複数あることになります。自分が使いたいデータベースの名前を入力して下さい。

- 以下のどちらかを行って下さい。
 - 変更をセーブする場合は、「保存(Save)」をクリックして下さい。odbcadm.ini ファイルにデータ・ソース情報を書き込みます。
 - セーブしないでキャンセルするには、「Home」をクリックして下さい。
- 追加したばかりのデータ・ソースが「データ・ソース」ウィンドウに現れます。



をクリックして更新して下さい。

データ・ソースの変更

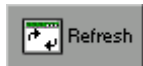
データ・ソースを変更するには、

- 「リモート・データ・ソース管理」のページで、処理したいデータ・ソースを選択、ハイライトして下さい。



- をクリックして下さい。

- 「データ・ソースの変更」のページで、必要に応じて情報を変更して下さい（詳細は24ページの「データ・ソースの追加」を参照して下さい）。
- 以下のどちらかを行って下さい。
 - 変更をセーブする場合は、「保存(Save)」をクリックして下さい。odbcadm.ini ファイルにデータ・ソース情報を書き込みます。
 - セーブしないでキャンセルするには、「Home」をクリックして下さい。
- 追加したばかりのデータ・ソースが「データ・ソース」ウィンドウに現れます。





をクリックして更新して下さい。


データ・ソースの削除

データ・ソースを削除するには、

1. 「リモート・データ・ソース管理」のページで、削除したいデータ・ソースを選択、ハイライトして下さい。

2.  をクリックして下さい。

3. 「データ・ソースの削除」のページで  をクリックして、データ・ソース削除を確認し、データ・ソースの削除と、*odbcdmn.ini* からの消去を行って下さい。データ・ソースの削除をキャンセルする場合は、「Home」をクリックして下さい。

4. 「リモート・データ・ソース管理」画面の「データ・ソース」ウィンドウには、
今削除したデータ・ソースが現れなくなります。  をクリックして更新して下さい。

odbcdmn.ini の内容

データ・ソース情報を追加後の *odbcdmn.ini* がどのようなになるかを以下に説明します。

まず、[ODBC Data Source]部には、データ・ソース名とそれに関連するドライバのリストが生成されます。

例えば、

```
[ODBC Data Sources]
```

```
Accounts Payable=your driver
```

```
SOL-Template=DrmTemplate
```

この場合、*Accounts Payable* はデータ・ソース名、*your driver* はこのデータ・ソースに関連する Unify DBIntegrator 上のドライバです。

次の部分にはデータ・ソースの構成を含みます。[ODBC Data Sources]部にリストされたデータ・ソースと同じものの名前があるはずですが、必要なセットアップ情報は、それぞれのドライバによって異なります。

それぞれのデータ・ソース構成の見出しは、以下のフォーマットです。

[Data Source Name]

例えば、

[Accounts Payable]

各データ・ソースに対し、以下のフォーマットでドライバ名を入力して下さい。

HP-UX

Driver=<value of \$UNIFY>/../bin/libdsodbc.sl

HP-UX以外のプラットフォーム

Driver=<value of \$UNIFY>/../bin/libdsodbc.so

データ・ソースの説明がある場合があります。説明文のフォーマットは以下の通りです。

Description=[write your description here]

Unify DataServer UNIX サーバに インストールされるファイル

インストール中に Unify DataServer UNIX サーバにインストールされるファイルの一覧です。

ファイル名	説明	インストール先
odbcdmn.ini	ODBC データ・ソース初期化ファイル。このファイルは、あなたの HOME ディレクトリに <i>odbcdmn.ini</i> が既に存在しない場合に限り、生成されます。	\$UNIFY/./bin
libiodbc.sl	HP-UX でのインストールのみ。ドライバ・マネージャ共有ライブラリ	\$UNIFY/./bin
libiodbc.so	HP-UX 以外のインストールのみ。ドライバ・マネージャ共有ライブラリ	\$UNIFY/./bin
license.txt	ライセンス同意書の入ったファイル	\$UNIFY/./web
README	ユーザ・ドキュメントに書かれていない技術情報が入っています。	\$UNIFY/./
odbcdmn	Unify DBIntegrator Server	\$UNIFY/./bin
libdsodbc.so (HP では libdsodbc.sl)	あなたの Unify DataServer ODBC ドライバ	\$UNIFY/./bin
cgi-bin	管理 web サーバの cgi-bin ディレクトリに配置されるリモート管理スクリプト。	\$UNIFY/./bin/web/cgi-bin
help	HTML ヘルプ・ページ	\$UNIFY/./bin/web/help
images	リモート管理で使用するグラフィック・ファイル	\$UNIFY/./bin/web/images
drivers	データ・ソース生成用 HTML ページ、ドライバ固有	\$UNIFY/./bin/web/drivers

第 2 章 : Unify DBIntegrator Client の インストール

Unify DBIntegrator Client のインストール

Unify DBIntegrator Client のインストールには 2 つの方法があります。あなたやユーザに都合の良い方を選んで下さい。

- ディスクから

Unify DBIntegrator Client のセットアップ・プログラムは、ユーザが自分のコンピュータにインストールするか、あるいはシステム管理者が代わりにインストールすることができます。Unify DBIntegrator Client セットアップ・ディスクのコピーを作ってユーザに配布するか、全てのインストール作業に同じセットアップ・ディスクを使用して下さい。

詳細は、40 ページの「ディスクからの Unify DBIntegrator Client のインストール」を参照して下さい。

- ネットワークから

Unify DBIntegrator Client セットアップ・プログラムのコンテンツを、エンドユーザがアクセス可能なネットワーク上のディレクトリにコピーすることができます。ディスクを複製したり、管理する手間を省きたい場合はこちらを選んで下さい。これにより、ユーザは 47 ページの「ネットワークからの Unify DBIntegrator Client のインストール」で説明された手順を実行することができます。

ブラウザに対し、Java アプレットを使用するため、JDBC 版 Unify DBIntegrator のダウンロードを命じることができます。詳細は、DBIntegratorJDBC.html ファイルを参照して下さい。これは JDBC 版 Unify DBIntegrator と共にインストールします。

注意 エンドユーザが使う前に、Unify DBIntegrator Client のインストール・ディスクをカスタマイズすることができます。カスタマイズできる機能として、非対話型インストールの指定、クライアントがコンタクトして DSN 更新する Unify DBIntegrator Server の追加、Unify DBIntegrator Manager ポート番号の変更、Unify DBIntegrator Client の DSN 更新間隔の変更、**Windows 95 もしくは NT のクライアントに対し、データ・ソースがシステム・データ・ソースであってユーザ・データ・ソースではないと指定、**があります。詳細は、37 ページの「Unify DBIntegrator Client インストールのコンフィグレーション」を参照して下さい。

Unify DBIntegrator Client のカスタマイズ

Unify DBIntegrator Client は、クライアントを何も構成しなくてもインストール可能ですが、エンドユーザに配布する前に、Unify DBIntegrator Client インストールプログラムをカスタマイズすることもできます。デフォルトでは、Unify DBIntegrator Client のインストールは対話型です。つまり、ネットワーク経由であれ、ディスクからであれ、ユーザは自分のマシンに自分でソフトウェアをインストールし、構成します。しかし、インストール方法をカスタマイズして、非対話型にすることができ、これにより、ユーザはただセットアップ・プログラムを動作させるだけで、インストール中にそれ以上の入力することは不要になります。

また、ソフトウェアのインストール後に、エンドユーザの仕事のを止めないために、Unify DBIntegrator Client のデフォルト設定を事前にカスタマイズすることができます。変更できるデフォルトとして、デフォルト・インストール・ディレクトリ、Unify DBIntegrator Server リスト、Unify DBIntegrator Manager のポート番号、DSN 更新周期などがあります。

Unify DBIntegrator Client カスタマイズの詳細は、37 ページの「Unify DBIntegrator Client インストールの構成」を参照して下さい。

Unify DBIntegrator Client をインストールする前に

Unify DBIntegrator Client のディスクをユーザに配布する前に、以下のシステム必要条件が満たされているか、チェックすることをお勧めします。インストールに何か問題がある場合は、「第 4 章：トラブル解決」をご覧ください。

注意 以下にお勧めする手順を踏んでおかないと、クライアントやサーバがデータ・アクセスを行う条件が整わない場合もあります。以下のチェックリストはエンドユーザ側の手間を最小にするためのご提案です。

推奨サーバ構成

- ✓ Unify DBIntegrator が少なくとも1台のサーバにインストールされ、稼動していなければなりません。
- ✓ TCP/IP ネットワーキング・オプションがインストールされ、稼動していなければなりません。
- ✓ インストール後に Unify DBIntegrator Client でテストするため、少なくとも1つのデータ・ソースを、Unify DBIntegrator Admin で構成して下さい。24 ページ「Unify DBIntegrator Server 上のデータソースの構成」を参照して下さい。
- ✓ サーバ上のアプリケーションは、構成されたシステム・データ・ソースを使って DBMS に接続できます。
- ✓ ユーザ・グループとデータ・グループを生成して下さい。詳細は、『Unify DBIntegrator 管理者ガイド』の「第3章 : Unify DBIntegrator の管理」を参照して下さい。
- ✓ デフォルト設定を変更する場合は、ユーザやユーザ・グループにデータ・ソースの可視性を与えて下さい。デフォルトでは、全てのデータ・ソースが全てのユーザに対して可視です。詳細は、『Unify DBIntegrator 管理者ガイド』の「第3章 : Unify DBIntegrator の管理」を参照して下さい。

推奨クライアント構成

- ✓ TCP/IP ネットワーキング・オプションがインストールされ、稼動していなければなりません。
- ✓ デフォルト設定が自分のネットワーク環境に適しているかどうかを確かめて下さい。詳細は、37 ページの「Unify DBIntegrator Client インストールの構成」を参照して下さい。
- ✓ クライアントはネットワークを介して、サーバと通信できます。

Unify DBIntegrator Client インストールの構成

サーバに Unify DBIntegrator をインストールした後は、1 台のコンピュータに Unify DBIntegrator Client をインストールしてみて、デフォルト設定が自分の環境に適しているかどうか、確認することをお勧めします。まず Unify DBIntegrator Client のデフォルト設定を評価し、マスター・ディスク上で設定変更し、それからユーザが Unify DBIntegrator Client を自分のコンピュータにインストールします。

デフォルトでは、以下のネットワーク設定において Unify DBIntegrator Client がインストールされます。

図 1 : デフォルトの custom.ini ファイル



```
[Install]
Interactive=1
DefaultDirectory=Unify%Client32

[Communications]
SvcPort=1599
SvcEnableBroadcasting=1
SvcServer=
SvcClientTimeout=10
SvcSystemDSN=0
SvcDirect=0
UpdateAlways=1
SvcSrvPort=1583
UpdateEveryXHourSec=3600
ClientHTTPPorts=80
ClientInitProto=http.dll
ServerList=
EnableAutoUpdate=1
KeepAlivePeriod=30
```

ユーザ配布前に Unify DBIntegrator Client を構成するには、

1. Unify DBIntegrator Client セットアップ・ディスク 1 をフロッピー・ドライブに挿入して下さい。

第2章：Unify DBIntegrator Client のインストール

2. *custom.ini* ファイルを探して下さい。
3. Notepad などのテキスト・エディタでファイルを開いて下さい。
または、
DOS プロンプトで、`edit a:¥custom.ini` とタイプして下さい。
4. 以下の設定を適切なものに編集して下さい。

Interactive=1

非対話型インストールに指定するには、この値を 0 に変更して下さい。これで、(ネットワークやディスクから)ユーザが *setup.exe* を実行しても、ユーザ入力を要求されなくなります。

重要 非対話型のインストール中、*silent.log* というファイルがクライアント機のインストール・ディレクトリに設置されます。このファイルはインストール中に発生したあらゆるエラーを詳述します。インストールが成功した場合、*silent.log* に「Unify DBIntegrator Client のインストールに成功しました。」という情報が入ります。インストールに何らかのエラーがあった場合は、*silent.log* にそのエラーが書き込まれます。このファイルを後で調べて、インストールが成功したか否か確認することをお勧めします。

Default Directory=Unify DBIntegrator ¥ Client16(もしくは ¥ Client32)

Unify DBIntegrator Client デフォルトのインストール・パスを変更するには、このファイルのデフォルト・ディレクトリ設定を編集して下さい。クライアント機の Unify DBIntegrator Client ソフトウェア用パスとディレクトリを新たに指定して下さい。

KeepAlivePeriod=30

ファイアウォールを介した TCP/IP 接続を維持するため、Unify DBIntegrator Client は、一定の間隔で無意味なパケットをサーバに送ります。この間隔は KeepAlivePeriod 設定で、分単位で定義されます。

5. 自分が行った変更をセーブし、*custom.ini* ファイルを閉じて下さい。

これで、あなたが与えた新しいデフォルト設定によって Unify DBIntegrator Client がインストールされます。

ヒント Unify DBIntegrator Client がインストールされた後で、これらの設定を変更するための詳細は、『Unify DBIntegrator 管理者ガイド』の「第 4 章：Unify DBIntegrator Client の使用」を参照して下さい。

ディスクからの Unify DBIntegrator Client のインストール

注意 Unify DBIntegrator Client の Windows 3.1/3.11 for Workgroups 版を、Windows NT や Windows 95 のコンピュータにインストールすることができます。但し、これは Windows 3.1/3.11 for Workgroups のデータをアクセスするために設計されたアプリケーションでしか使用できません。

ディスクから Unify DBIntegrator Client をインストールするには、以下の手順を実行して下さい。

1. ODBC アプリケーションを全て閉じて下さい。
-

ヒント Microsoft Office のツールバーを表示している場合は、開いている ODBC アプリケーションがあります。閉じてからインストールを進めることをお勧めします。

2. 自分の OS に合った Unify DBIntegrator Client セットアップ・ディスクをフロッピー・ドライブに挿入して下さい。
3. セットアップ・プログラムを動作させて下さい。

Windows 3.1、Windows for Workgroups 3.11、Windows NT 3.51

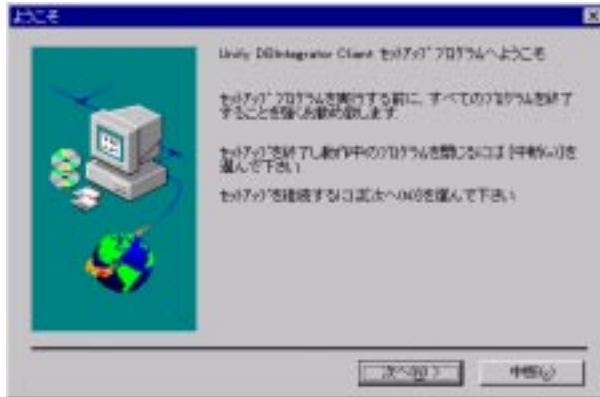
「ファイル」メニューから「実行」を選んで下さい。

Windows 95、Windows NT 4.0

ツールバーの「スタート」ボタンを選択し、「実行」を選択して下さい。

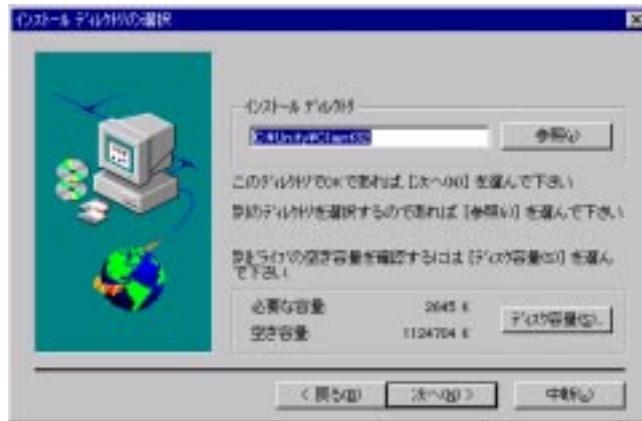
4. コマンドライン・ボックスで `a: ¥ setup` とタイプして下さい。なお、a ドライブを使っていないなら、適当なドライブ名に置き換えて下さい。「OK」を選択して下さい。以下のダイアログ・ボックスが現れます。

5. アクティブなアプリケーションを閉じて、「次へ」を選択し、セットアップ・プログラムを進めて下さい。



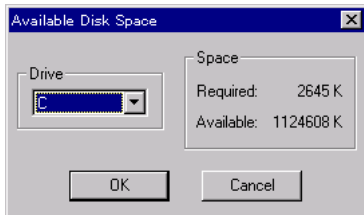
第2章：Unify DBIntegrator Client のインストール

6. 以下のダイアログ・ボックスが現れます。



- Windows 3.1、Windows for Workgroups 3.11 上でクライアントをインストールしている場合、事前設定されたインストール・ディレクトリは UnifyDBIntegrator ¥ Client16 です。
- Windows NT、Windows 95 上でクライアントをインストールしている場合、事前設定されたインストール・ディレクトリは UnifyDBIntegrator ¥ Client32 です。また、ダイアログ・ボックスは、インストールが必要且つ可能な領域を、事前設定されたインストール・ドライブについて表示します。
- インストール・ディレクトリを変更しないなら、ステップ 12 までスキップして下さい。

7. デフォルトのインストール・ドライブは、Windows がインストールされているドライブです。インストール・ドライブを変更したい場合は、「ディスク容量」を選択し、別のドライブの領域を見て下さい。



8. 使用可能なドライブのドロップダウン・リストから、新しいドライブを選択し、ディスクの空き領域をチェックして下さい。適当なインストール・ドライブを選択したら、「OK」を選択して下さい。
9. インストール・ディレクトリを変更するために、「参照」を選択して下さい。以下のダイアログ・ボックスが現れます。



10. 「パス」のテキストボックスで、Unify DBIntegrator Client をインストールしたいドライブとディレクトリをタイプして下さい。どんなパス名でも構いません。

または、

「ディレクトリ」のリストからディレクトリを、「ドライブ」のドロップダウン・リストからドライブを選択して下さい。

11. 「OK」を選択して下さい。「インストール・ディレクトリの選択」のダイアログ・ボックスに新しいパスが表示されます。
12. 「次へ」を選択して下さい。

以下のダイアログ・ボックスが現れます。



13. 自分が行った選択を見直して下さい。何らかの変更を行うには、変更したい設定の入ったダイアログ・ボックスへ戻るまで「戻る」を選択して下さい。変更を行った後、このダイアログ・ボックスへ戻るまで「次へ」を選択して下さい。

14. 「インストール」を選択して下さい。画面にプログレス・メータとダイアログ・ボックスが現れ、インストールの進捗状況を知らせます。

ファイルが全てインストール・ディレクトリにコピーされると、セットアップ・プログラムは、以下のシステム前提条件をチェックします。

- TCP/IP
- Unify DBIntegrator が少なくとも 1 台のサーバにインストールされ、稼働している。
- Unify DBIntegrator のデータ・ソースが、サーバ上で構成されている。

セットアップ・プログラムは Unify DBIntegrator に接続を試みます。不可能な場合、インストールは完了しますが、データ・ソースは更新しません。

セットアップ・プログラムがシステム必要条件の確認に全て成功すると、インストールが完了します。これで Unify DBIntegrator Client が使えるようになりました。

以下のダイアログ・ボックスが現れます。



注意 問題を告げるメッセージを何か受け取った場合は、このマニュアル巻末の「第4章 :
トラブル解決」をご覧ください。

15. 「終了」を選択して、セットアップ・プログラムを終えて下さい。

Windows 3.1/3.11 for Workgroups

Unify DBIntegrator Client のプログラム・フォルダはデスクトップに生成されます。中には「データ・ソース更新」アイコン、「全般的な Unify DBIntegrator Client ヘルプ」アイコン、アンインストール・ユーティリティが入っています。

Windows 95、Windows NT 4.0

Windows 95 および Windows NT 版 Unify DBIntegrator Client のプログラム・フォルダには、Unify DBIntegrator Client のヘルプが入っており、「データ・ソース更新」アイコンは「スタート」メニューの「プログラム」の下に生成されません。

ヒント Windows 95 および Windows NT 4.0 で Unify DBIntegrator Client をアンインストールするには、「プログラムの追加 / 削除」ユーティリティを使って下さい。これは「コントロール・パネル」から使用できます。

16. Unify DBIntegrator Client をインストールしたときに、何かアプリケーションを開いていた場合は、Unify DBIntegrator Client 使用前にコンピュータを再起動する必要があります。コンピュータを自動再起動するには、「はい」を選択して下さい。後回しにする場合は、「いいえ」を選択して下さい。

Unify DBIntegrator Client 取り扱いの詳細は、『Unify DBIntegrator 管理者ガイド』の「第4章 : Unify DBIntegrator Client の使用」を参照して下さい。

ネットワークからの Unify DBIntegrator Client のインストール

Unify DBIntegrator Client をネットワークからインストールするには、以下の手順を実行して下さい。

1. (オプション)Unify DBIntegrator Client ディスクの配布に先立ち、自分が行ったデフォルト設定の変更を確かめて下さい。詳細は、37 ページの「Unify DBIntegrator Client インストールの構成」を参照して下さい。
2. 適切な Unify DBIntegrator Client セットアップ・ディスクのコンテンツを、特定のネットワーク・ディレクトリにコピーして下さい。

重要

Windows 3.1/3.11 for Workgroups 3.11 と Windows 95/NT のソフトウェアが、同じコンピュータにインストールされる場合は、ディレクトリを別々にしなければなりません。例えば、<x>:¥DBIntegrator¥Client16 と、<x>:¥DBIntegrator¥Client32 とに分けます。

-
3. ユーザに対し、Unify DBIntegrator Client をインストールする前には、自分のコンピュータの ODBC アプリケーションを全て閉じるように告げて下さい。

ヒント

ユーザに Microsoft Office のツールバーが表示されていないかチェックするように告げて下さい。閉じてからインストールを進めることをお勧めします。

-
4. ユーザにセットアップ・プログラムの動作方法を説明して下さい。

Windows 3.1/3.11 for Workgroups

「ファイル」メニューから「実行」を選択して下さい。

Windows 95、Windows NT 4.0

ツールバーの「スタート」ボタンを選択し、「実行」を選択して下さい。

5. コマンドライン・ボックスで[drive]: ¥ [path]setup とタイプして下さい。ドライブ名とディレクトリ・パスは適切なものに置き換えて下さい。「OK」を選択して下さい。

インストールは、ディスクからのインストールと同じ方法で進行します。

クライアントにインストールされるファイル**Windows 3.1、Windows for Workgroups 3.11**

セットアップ・プログラムは、以下のファイルをクライアント・コンピュータにインストールします。

注意 デフォルトの Unify DBIntegrator Client インストール・ディレクトリは、システム・ドライブの UnifyDBIntegratorClient ¥ Client16 です。

ファイル名	インストール先
Odbcadm.exe	<Windows>ディレクトリ
Chttp.dll	<Windows> ¥ System ディレクトリ
Clntres.dll	<Windows> ¥ System ディレクトリ
Cpn16ut.dll	<Windows>ディレクトリ
Ctl3dv2.dll	<Windows> ¥ System ディレクトリ
Odbc.dll	<Windows> ¥ System ディレクトリ
Odbc16ut.dll	<Windows> ¥ System ディレクトリ
Odbc32.dll	<Windows> ¥ System ディレクトリ
Odbccp32.dll	<Windows> ¥ System ディレクトリ
Odbccurs.dll	<Windows> ¥ System ディレクトリ
Odbcinst.dll	<Windows> ¥ System ディレクトリ
Odbcinst.hlp	<Windows> ¥ System ディレクトリ

ファイル名	インストール先
Oemclnt.dll	<Windows>¥ System ディレクトリ
Udbclt.cfg	<Windows>¥ System ディレクトリ
Udbclt16.dll	<Windows>¥ System ディレクトリ
Udbclt16.hlp	<Windows>¥ System ディレクトリ
DelsL1.isu	Unify DBIntegrator Client インストール ディレクトリ
Oemscucr.dll	Unify DBIntegrator Client インストール ディレクトリ
Scucres.dll	Unify DBIntegrator Client インストール ディレクトリ
Udbut16.exe	Unify DBIntegrator Client インストール ディレクトリ
Udbref16.exe	Unify DBIntegrator Client インストール ディレクトリ
Udbref16.hlp	Unify DBIntegrator Client インストール ディレクトリ

Windows 95 および Windows NT

Windows 95 クライアントでは、これらのファイルは<Windows>¥ System ディレクトリにコピーされます（下表参照）。Windows NT クライアントでは、同じファイルが<Windows>¥ System32 ディレクトリにコピーされます。

注意 Windows NT クライアントに Windows 3.11 版 Unify DBIntegrator Client をインストールすると、幾つかのファイルは<Windows>¥ System32 でなく、<Windows>¥ System にコピーされます。

ファイル名	インストール先
Ctl3d32.dll	<Windows>¥ System ディレクトリ
Ccypto.dll	<Windows>¥ System ディレクトリ
Chttp.dll	<Windows>¥ System ディレクトリ
CIntres.dll	<Windows>¥ System ディレクトリ
Ds16gt.dll	<Windows>¥ System ディレクトリ
Ds32gt.dll	<Windows>¥ System ディレクトリ
Mfc30.dll	<Windows>¥ System ディレクトリ
Msvcr20.dll	<Windows>¥ System ディレクトリ
Odbcad32.exe	<Windows>ディレクトリ
Odbc16gt.dll	<Windows>¥ System ディレクトリ
Odbc32.dll	<Windows>¥ System ディレクトリ
Odbc32gt.dll	<Windows>¥ System ディレクトリ
Odbccl32.cpl	<Windows>¥ System ディレクトリ
Odbccp32.dll	<Windows>¥ System ディレクトリ
Odbccr32.dll	<Windows>¥ System ディレクトリ
Odbcinst.hlp	<Windows>¥ System ディレクトリ
Odbcint.dll	<Windows>¥ System ディレクトリ
Oemclnt.dll	<Windows>¥ System ディレクトリ
Udbclt32.cfg	<Windows>¥ System ディレクトリ
Udbclt32.cnt	<Windows>¥ System ディレクトリ
Udbclt32.dll	<Windows>¥ System ディレクトリ

ファイル名	インストール先
Udbclt32.hlp	<Windows> ¥ System ディレクトリ
DeisL1.isu	Unify DBIntegrator Client インストール ディレクトリ
Oemscucr.dll	Unify DBIntegrator Client インストール ディレクトリ
Scucres.dll	Unify DBIntegrator Client インストール ディレクトリ
Udbutl32.exe	Unify DBIntegrator Client インストール ディレクトリ
Udbref32.exe	Unify DBIntegrator Client インストール ディレクトリ
Udbutl32.cnt	Unify DBIntegrator Client インストール ディレクトリ
Udbutl32.hlp	Unify DBIntegrator Client インストール ディレクトリ

第3章 : DBIntegrator Client データ・ソースの構成

DBIntegrator Client データ・ソースの構成



Unify DBIntegrator Client は、Unify DBIntegrator Server と協調する軽量のユニバーサル・ドライバで、エンドユーザが複数のリモート・サーバ上のデータ・ソースをアクセスすることを可能にします。Unify DBIntegrator Server に対する ODBC、JDBC 両方の接続に利用できます。

ユーザは、クエリを実行したり Unify DBIntegrator ODBC データ・ソースのデータをリクエストするときは、必ず Unify DBIntegrator Client を利用します。

Unify DBIntegrator Client は、ユーザのコンピュータにインストールする必要がある唯一の ODBC (または JDBC) ドライバで、あらゆる ODBC 対応 DBMS 上の) エンタープライズ・データをアクセスできます。

データ・ソースの更新

Unify DBIntegrator Client を Unify DBIntegrator ドライバで使用する場合は、クライアント上のデータ・ソースを手作業で更新しなければなりません。

クライアント・コンピュータ上において、どのデータ・ソースが使用可能であるかを調べるには、ODBC Administrator を実行して下さい。各クライアント上のデータ・ソースに関する情報は、以下の場所に蓄積されています。

Windows 95、Windows NT

HKEY_CURRENT_USER¥Software¥ODBC の下の ODBC.INI レジストリ・キーに、その時点における Unify DBIntegrator Client ODBC データ・ソースが列記されます。

Windows 3.1、Windows for Workgroups 3.11

クライアント `odbc.ini` ファイルの[ODBC Data Sources]部に、その時点における Unify DBIntegrator Client データ・ソースが列記されます。このファイルは Windows ディレクトリにあります。

図2：`odbc.ini` ファイル例 (Windows 3.11)



上の `odbc.ini` ファイル例においては、Unify DBIntegrator Client ドライバ (`udbc16.dll`) を使用するデータ・ソースが2つあります。1つ目は、IP アドレスが `128.1.0.61`、Unify DBIntegrator Manager ポートが `1583` (デフォルト・ポート番号) に構成されています。2つ目は、IP アドレスが `128.1.0.62`、Unify DBIntegrator Manager ポートが `1583` (デフォルト・ポート番号) のサーバを介するように構成されています。

Unify DBIntegrator Client データ・ソースの構成

Unify DBIntegrator Client のデータ・ソースの構成には、「Unify DBIntegrator Client ODBC の構成」のダイアログを使用して下さい。ODBC Administrator (Microsoft 製)と併せて使うことで、「Unify DBIntegrator Client ODBC の構成」ダイアログは以下が可能です。

- クライアント上のデータ・ソースの生成
- データ・ソースの更新
- データ・ソースの削除

データ・ソースの追加

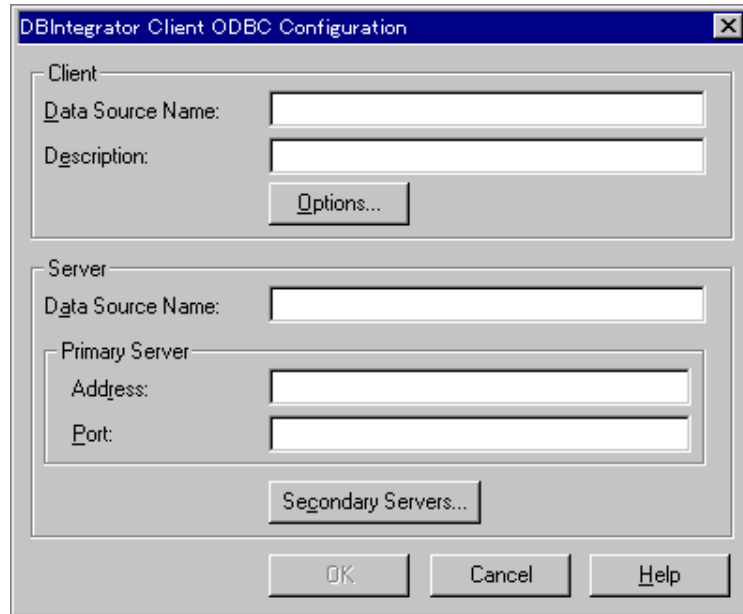
Unify DBIntegrator Client 上でデータ・ソースを追加するには、

1. Windows ディレクトリで `odbcad32.exe` を実行し、ODBC Administrator を開いて下さい。



2. 「ユーザ DSN」タブで「追加」をクリックして下さい。
3. 使用可能なドライバのリストから Unify DBIntegrator Client を選び、「完了」をクリックして下さい。

4. 「DBIntegrator Client ODBC Configuration」ダイアログを使って、必要な各データ・ソースを「クライアント(Client)」、「サーバ(Server)」について詳細に設定して下さい。



注意 Unify DBIntegrator Client では直接「ファイル DSN」を生成することはできません。「ファイル DSN」を生成するには、まず「ユーザ DSN」を生成して下さい。さらに、DSN プロパティが「ユーザ DSN」に設定された状態で「ファイル DSN」を生成して下さい。この回避策によって、「ファイル DSN」を生成することが可能です。

5. ダイアログの「クライアント(Client)」部で、「データ・ソース名(Data Source Name)」フィールドにデータ・ソースの識別名を入力して下さい。例えば、「人事情報」などです。
6. データ・ソースのデータに関する説明を入力して下さい。例えば、「全社員の入社日付と給与履歴」などです。

7. アレイ・フェッチ設定の変更や確認は、「オプション(Options)」をクリックして下さい。60 ページの「アレイ・フェッチ・オプションの変更」を参照して下さい。
8. ダイアログの「サーバ(Server)」部で、「データ・ソース名(Data Source Name)」を入力して下さい。この名前は、Unify DBIntegrator Server で使われている「データ・ソース名」と一致しなければなりません。
9. サーバの名前または IP アドレスを入力して下さい。
10. サーバのポートを入力して下さい。

注意 今のところ、Unify DBIntegrator は 2 次サーバをサポートしません。

11. 「OK」をクリックして、「DBIntegrator Client ODBC Configuration」のダイアログを閉じて下さい。
12. 別のデータ・ソースについて、ステップ 2 から繰り返して下さい。
13. 「OK」をクリックして、ODBC Administration ユーティリティを閉じて下さい。

データ・ソースの更新

クライアント上の既存のデータ・ソースを更新するには、

1. Windows ディレクトリで *odbcad32.exe* を実行し、ODBC Administrator を開いて下さい。
2. 更新対象のデータ・ソースが「ユーザ・データ・ソース」ボックスに現れます。ハイライトして下さい。
3. 「ユーザ DSN」タブで「構成」をクリックして下さい。
4. 「DBIntegrator Client ODBC Configuration」ダイアログで必要な変更を行い、「OK」をクリックして下さい。
5. 「OK」をクリックして、ODBC Administrator を閉じて下さい。

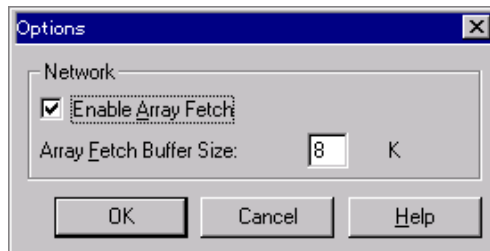
データ・ソースの削除

クライアント上のデータ・ソースを削除するには、

1. Windows ディレクトリで *odbcad32.exe* を実行し、ODBC Administrator を開いて下さい。
2. 更新対象のデータ・ソースが「ユーザ・データ・ソース」ボックスに現れます。ハイライトして下さい。
3. 「ユーザ DSN」タブで「削除」をクリックして下さい。
4. 「はい」をクリックして、データ・ソース削除を確認して下さい。
5. 「OK」をクリックして、ODBC Administrator を閉じて下さい。

アレイ・フェッチ・オプションの変更

1. 「DBIntegrator Client ODBC Configuration」ボックスで、「オプション (Options)」をクリックして下さい。
2. アレイ・フェッチをオンにするには、「アレイ・フェッチを有効にする」のチェック・ボックスをクリックして下さい。デフォルトはオンに設定されています。ドライバでロウを1つ1つ検索しない限り、アレイ・フェッチはオンのままにしておいて下さい。
3. アレイ・フェッチがオンの状態で、データのプリフェッチに使うバッファのサイズを変更できます。「サイズ」のフィールドに、1～64 の範囲で新しい値を入力して下さい。デフォルトは8K です。



4. 「OK」をクリックして下さい

第4章：トラブル解決

トラブル解決

この章は、クライアント・コンピュータに Unify DBIntegrator Client をインストールしたり、サーバに Unify DBIntegrator をインストールする上で発生する問題を解決する手引きとして書かれたものです。Unify DBIntegrator の使用全般に関する問題は、『Unify DBIntegrator 管理者ガイド』の「第 5 章：トラブル解決」を参照して下さい。

この章の内容で、なお問題を解決できないようでしたら、「ユニファイ・カスタマ・サポート」にご連絡下さい。詳細は、「お読みになる前に」の「ユニファイジャパン株式会社連絡先」を参照して下さい。ご質問、ご意見をお待ちしております。

全般的トラブル解決のチェックリスト

容易に究明できる問題点の洗い出しは、このチェックリストを手引きにしてください。

- ✓ UNIX サーバの構成や Unify DataServer UNIX の管理を理解していますか？
- ✓ サーバやクライアント・コンピュータは、推奨のシステム必要条件を最低限満たしていますか？詳細は、「お読みになる前に」の9ページ「システム必要条件」を参照してください。
- ✓ TCP/IP がクライアントとサーバにインストールされ、稼動していますか？
- ✓ クライアントとサーバは相互に ping ができますか？ping はネットワーク接続の最下層レベルです。他のコンピュータと ping できるなら、そのコンピュータにネットワークで接続されていることを意味します。
- ✓ ホスト名を使ってサーバを ping できますか？これはサーバを名前で参照できることを意味します。できない場合、Domain Name Server に問題があるかも知れません。
- ✓ データベース・ソフトウェアは正しくインストールされていますか？データベース・ベンダのツールを動かし、データベースのインストール状況を確認してください。
- ✓ サポートされているバージョンの Unify DataServer UNIX (バージョン 6.3 以降) を稼動させていますか？
- ✓ 正しいバージョンの Unify DBIntegrator Client ソフトウェアをインストールしましたか？Unify DBIntegrator Client が自分の OS に合っていることを確かめて下さい。udbclt32.dll (または udbclt16.dll) のプロパティで OS 情報をチェックして下さい。

注意 Unify DBIntegrator Client の Windows 3.1/3.11 for Workgroups 版を、Windows NT や Windows 95 のコンピュータにインストールすることができます。但し、これは Windows 3.1/3.11 for Workgroups のデータをアクセスするために設計されたアプリケーションでしか使用できません。

- ✓ 自分のデータベースに接続できるサーバ上で、システム・データ・ソースをセットアップしましたか？これについては、サーバで稼動するアプリケーションから DSN を使い、データベースに直接接続を試してみれば、テストできます。

Unify DataServer UNIX への Unify DBIntegrator のインストール

この節では、UNIX に Unify DBIntegrator Server をインストールする際に起こり得る問題について、その解決法を説明します。

Unify DBIntegrator Server を起動できない場合。

次のメッセージがヒントになります。

「エラー：Unify DBIntegrator Server 予約ポート 1583 は使用中です。」、あるいは「バインド失敗：1583：ポート 1583。ポートは使用中か、または使用禁止ポートです。」というメッセージを受け取った場合。

Unify DBIntegrator Server が既に動作中であるか、または別のアプリケーションが既にこのポートを使用していることを意味します。

Unify DBIntegrator Server プログラムは、UNIX プロセスとしてインストールされ、起動します。

これらのプログラムが動作中であることをチェックするには、

1. プロンプトで以下のコマンドを入力して下さい(自分のシステム向け ps コマンドの機能を調べるには 'man ps' を使って下さい)

```
ps -u[Unify]
```

なお、[Unify]は Unify DBIntegrator Server 動作下におけるユーザ名です。
プロセスの一覧が現れます。

2. COMMAND カラムで、Unify DBIntegrator Server のインスタンスを調べて下さい。このカラムに出ていれば現在動作中です。COMMAND カラムに Unify DBIntegrator Server が見当たらなければ、Control Center でサーバを起動して下さい。これで Unify DBIntegrator Server が起動します。

これでプログラムが立ち上げに失敗した場合、ポート番号が既に別のプログラムで使用されている可能性があります。使用中のポート番号をチェックするには、

1. プロンプトで以下のコマンドを入力して下さい。

```
netstat -na |pg
```

2. 「ローカル・アドレス」のカラムで、1583 で通信しているプロセスをチェックして下さい。

- 別のアプリケーションがこのポートを使っている場合、そのプログラムをシャットダウンするか、それ以外のポート番号を使用する構成にする、または Unify DBIntegrator Server が他のポートを使用するように構成して下さい。

重要 このサーバのポート番号は極力変えないようにお願いします。可能な限り、Unify DBIntegrator Server のポートよりも、それ以外のサービスのポート番号を変えるようにして下さい。

ポート番号の変更については、『Unify DBIntegrator 管理者ガイド』の 28 ページ、「Unify DBIntegrator Client の Unify DBIntegrator ポート番号の変更」を参照して下さい。

Unify DBIntegrator Server を起動しようとして、以下のエラーメッセージを受け取った場合、

ld.so.1:ocdmn:fatal:libiodbc.so:open failed:そのようなファイルやディレクトリはありません

共有ライブラリを開けません:libiodbc.so

このメッセージを受け取った場合、アプリケーションが ODBC ドライバ・マネージャの共有ライブラリ (*libiodbc*) が見付からないか、ロードができません。

共有ライブラリ・パスの環境変数が、ODBC ドライバ・マネージャの入ったディレクトリを含む設定であるか確かめて下さい。

```
export LD_LIBRARY_PATH=$UNIFY/./bin:$LD_LIBRARY_PATH
```

リモート・データ・ソース管理またはサーバ・コントロール・センタを表示できません。

以下をチェックして下さい、

- web サーバがインストールされていますか？
- web サーバが動作していますか？
- 各ファイルが正しい位置にインストールされていますか？
- ブラウザは正しい場所を見えていますか？
- ブラウザはテーブルを操作できますか？ Netscape Navigator 4.0 または Microsoft Internet Explorer 3.0 を使っているかどうか確かめて下さい。

リモート管理のスクリプトを正しい位置にインストールしたか、確かめて下さい。
web サーバは以下のようにセットアップされなければなりません。

コピー元	コピー先 Web ディレクトリ/エイリアス
\$UNIFY/web/cgi-bin	/cgi-bin
\$UNIFY/web/drivers	/drivers
\$UNIFY/web/help	/help
\$UNIFY/web/images	/images

注意 */drivers* と */cgi-bin* のディレクトリは、同じディレクトリの下でなければなりません。
cgi-bin の CGI 実行プログラムは、*../drivers* のパスにより、*/drivers* 内のファイルを参照します。

Unify DBIntegrator Client のインストール

この節では、Windows 3.1、Windows for Workgroups 3.11、Windows 95、Windows NT に Unify DBIntegrator Client をインストールする際に起こり得る問題について、その解決法を説明します。

以下のメッセージを受け取った場合、

「セットアップ・プログラムを実行するためのメモリが不足しています。全てのアプリケーションを閉じてから、再度セットアップ・プログラムを起動して下さい。それでもセットアップ・プログラムを動作できない場合は、システム管理者に連絡して下さい。」

このメッセージを受け取ったら、開いているアプリケーションを全て閉じ、セットアップ・プログラムも閉じて下さい。

また、ディスクの空き領域をチェックする必要があります。Unify DBIntegrator Client をインストールしたいディスク・ドライブに領域を確保するか、別のドライブにインストールしなければならない場合もあります。

以下のメッセージを受け取った場合、

「セットアップ・プログラムがファイルに書き込みできません。ディスクが一杯か、ライト・プロテクトされているか、もしくは損傷を受けています。システム管理者に連絡して下さい。」

以下を行って下さい。

- インストールしているディスク・ドライブの空き領域をチェックして下さい。
Windows 3.1 や Windows for Workgroups 3.11 では、Unify DBIntegrator Client はディスクの空き領域が最低 880KB 必要です。Windows 95 や Windows NT では、ディスクの空き領域が 1.8MB 必要です。
- ディスク・ドライブ (またはディレクトリ) がライト・プロテクトされているかどうかチェックして下さい。
- それでもセットアップ・プログラムを動作できない場合、ディスクが損傷していないかチェックして下さい。

以下のメッセージを受け取った場合、

「TCP/IP 接続に問題があります。システム管理者に連絡して下さい。」

TCP/IP はネットワーク・プロトコルで、Unify DBIntegrator Client から Unify DBIntegrator ヘルプデスクを通信したり、クライアント・ワークステーションが常にデータ・ソースを可視に保つために使用されます。Unify DBIntegrator Client セットアップ・プログラムが、ファイルを自分のディスク・ドライブに正常にコピーした後でこのメッセージを受け取った場合、TCP/IP がコンピュータにインストールされていないか、正しく構成されていない可能性があります。TCP/IP のインストール状況をチェックして下さい。

**付録 A : Unify DataServer UNIX
ODBC ドライバ仕様**

Unify DataServer UNIX ODBC ドライバ仕様

Unify のデータ型と関数、ODBC のデータ型と関数についての詳細は、Unify DataServer UNIX の参考文献もしくは『Microsoft ODBC プログラマーズ・リファレンス』バージョン 2.5 を参照して下さい。

Unify DataServer UNIX ODBC ドライバのデータ型

この表は、Unify DataServer のデータ型と ODBC (SQL) データ型のリレーションシップの概要です。

Unify DataServer データ型	ODBC 型
AMOUNT	SQL_NUMERIC(1-9,2)
BINARY	SQL_LONGVARBINARY
BYTE	SQL_VARBINARY(n)
CHARACTER	SQL_VARCHAR(n)
DATE	SQL_DATE
HUGE AMOUNT	SQL_NUMERIC(1-15,2)
HUGE DATE	SQL_DATE
FLOAT	SQL_FLOAT
DOUBLE PRECISION	SQL_DOUBLE
NUMERIC(1-4)	SQL_SMALLINT
NUMERIC(5-9)	SQL_INTEGER
REAL	SQL_REAL
TEXT	SQL_LONGVARCHAR
TIME	SQL_TIME(p)
ROWID	SQL_INTEGER

ODBC API の準拠

Unify DataServer UNIX ODBC ドライバは、Microsoft ODBC バージョン 2.5 の仕様に一致しています。「API レベル」の「コア」、「レベル 1」の全てと大半の「レベル 2」に適合しています。

API の準拠については、『Unify DBIntegrator 管理者ガイド』71 ページの「付録 B : Unify DBIntegrator ODBC API の準拠」を参照して下さい。

SQL 文法のサポート

Unify DataServer NT ODBC ドライバは、「SQL 文法レベル」の「最小」、「コア」、および大半の「拡張」レベルに適合しています。

ODBC データ型や関数の詳細は、『Microsoft ODBC プログラマーズ・リファレンス』バージョン 2.5 を参照して下さい。

索引

あ

アレイ・フェッチ **60**

アンインストール

- Windows 95、Windows NT 4.0 版
Unify DBIntegrator Client **46**
- Windows 3.1/3.11 for Workgroups 版
Unify DBIntegrator Client **46**

インストール

- 手順の概要 **15**
- UNIX サーバへの Unify DBIntegrator の **15**
Unify DBIntegrator Client **40-46**
 - ネットワークから **47**
 - ディスクから **40**
- UNIX サーバへの Unify DBIntegrator
Server の **23**

SQL 文法サポート Unify DataServer ODBC
ドライバを参照。

ODBC Administrator **55,57**

ODBC API 準拠 Unify DataServer ODBC
ドライバを参照。

odbcadmni.ini **27,55**
記述例 **56**

か

custom.ini ファイル **37**

技術サポート **11**

必要な情報 **11**

クライアントのカスタマイズ Unify
DBIntegrator Client を参照。

構成

- データ・ソース
- クライアント **57**
- サーバ **20,24-27**

さ

JDBC クライアント **55**

システム必要条件 **9**
ドライバ **9**

た

データ型 Unify DataServer ODBC ドライバを参
照。

DSN **58**

データ・ソース

- アレイ・フェッチ **60**
- クライアント
 - 追加 **57**
 - 構成 **56,57**
- odbcadmni.ini **55**
- 削除 **60**
- 更新 **59**
- 削除 **27**
- 変更 **26**
- odbc.ini **27,56**
- サーバ
 - 追加 **24**
 - 構成 **20,24-27**
- 型 **58**
- 更新

クライアント上 **55**

データ・ソースの更新 **55**

データ・ソースの削除 **27**

データ・ソースの追加 **24**

データ・ソースの変更 **26**

デフォルト設定

- Unify DBIntegrator Client
- Unify DataServerODBC ドライバ参照。

ドライバ

必要条件 **10**

トラブル解決

- Unify DBIntegrator Client のインストール **69-70**
- Unify DBIntegrator Server リモート管理 **67**
- Unify DBIntegrator Server のインストール **65-66**

は

- ファイル DSN
生成 **58**

や

- ユーザ DSN
生成 **58**

Unify DataServer ODBC ドライバ

- データ型 **73**
- ODBC API 準拠 **74**
- 仕様 **73-74**
- SQL 文法サポート **74**

Unify DBIntegrator

- custom.ini ファイル **37**
- UNIX サーバのデフォルト設定 **17**
- UNIX サーバのファイル **29**
- インストール インストール参照。

Unify DBIntegrator Client

- データ・ソースの追加 **57**
- クライアント・データ・ソースの構成 **55**
- カスタマイズ **37**
- デフォルト設定 **37**
- ファイル
 - Windows3.1/3.11 for Workgroups **48**
 - Windows NT、Windows 95 **49**
 - JDBC 版（説明） **55**
 - ODBC 版（説明） **55**
 - ODBC 構成ダイアログ **57**

Unify DBIntegrator Server

- データ・ソースの追加 **24**
- odbcdmn.ini **27**

ら

- リモート管理
 - データ・ソースの追加 **20,24-27**